



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	仮称FKガレージ自動車整備工場建設工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.6	/5		がんばろう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9	/5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

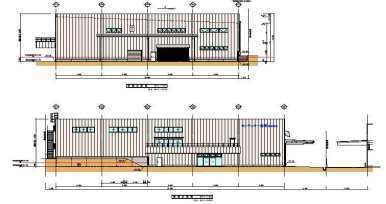
3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			2.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④防錆措置をした鉄骨造を採用。 	Q-1 2 2.1 2.1.2	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3	② 昼光利用設備	
	3.2 3.2.1	③ 昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥芝生及び低木等の緑地等の空地を設けることにより、風の通り道を確保した。 	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧自然通風・自然換気システムによる自然エネルギーの利用。 	LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
	2	⑧ 自然エネルギー利用	
	3	⑨ 設備システムの高効率化	
	4 4.1	⑩ モニタリング	
<ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬断熱材は硬質ウレタンボードを採用。 	LR-2 1 1.1	⑪ 節水	
	1.2 1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
	1.2.2	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1	⑫ 材料使用量の削減	
	2.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
	2.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	2.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1	⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
3.2 3.2.1	⑬ 消火剤		
3.2.2	⑬ 断熱材		
3.2.3	⑬ 冷媒		
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率は88%である。 	LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮	
	2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.2
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰災害時に飲料用等に使えるように受水槽に水道の蛇口を設置。 	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
	2.1.2	⑯ 免震・制振性能	
	2.4 2.4.1	⑰ 空調・換気設備	
	2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備	
	2.4.3	⑰ 電気設備	
	2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法	
	2.4.5	⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	2.9
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱執務スペースは6.7㎡/人である。 	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1	⑲ 階高のゆとり	
	3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 	Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.5
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ㉒芝生及び低木等の緑地等の空地を設けることにより、風の通り道を確保した。 	Q-3 1	⑳ 生物環境の保全と創出	
	2	㉑ まちなみ景観への配慮	
	3 3.2	㉒ 敷地内温熱環境の向上	
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) 	LR-2 2 2.5	⑲ 持続可能な森林から産出された木材	
LR-3 2 2.2	⑲ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称FKカレッジ自動車整備工場	階数	地上2F
建設地	静岡県駿東郡小山町	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	10人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2024年7月18日
敷地面積	2,999 m ²	作成者	小澤 敏夫
建築面積	1,768 m ²	確認日	2024年7月29日
延床面積	3,330 m ²	確認者	小澤 敏夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境 (スコア: 2.7)

Q2 サービス性能 (スコア: 2.8)

Q3 室外環境(敷地内) (スコア: 2.4)

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー (スコア: 3.1)

LR2 資源・マテリアル (スコア: 2.8)

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.1)

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		その他 特になし
Q1 室内環境 仕上材等の建材は、全てF☆☆☆☆を使用。	Q2 サービス性能 各仕上材は防汚性の高い材料を採用し、外部に露出する金属部材にはメッキ処理の防錆対策を採用。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽により良好な景観を形成し、建物や塀の色彩においては周辺の風景にバランスよく調和するように計画している。
LR1 エネルギー 省エネ適合判定BELmは0.75である。	LR2 資源・マテリアル 断熱材は硬質ウレタンボードを採用。	LR3 敷地外環境 駐車スペースを適正に確保。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される